



樹妙だより

No.177 2019/10.11



慈 悲 喜 捨

十月は、全国の神様が出雲大社に集まるので、各地域では神様が不在になるといわれています。そのため、旧暦では十月を「神無月（かんなづき）」と言います。なお、神様が集まる出雲では「神在月（かみありづき）」と言います。

神様は、たくさんの人々のご縁を決める「神議り（かむはかり）」を旧暦の10月11日から17日の7日間行うと言われています。稲佐（いなさ）の浜で迎えられた神々が、出雲大社、佐太神社（さだじんじゃ）、万九千神社（まんくせんじんじゃ）と、場所を移しながら神議りをするを「神在祭（かみありさい）」と言い、出雲地方では最も重要な神事となっています。

出雲大社には、大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）が祀られています。日本書紀では、大国主大神が日本の国造りをして天照大神（あまてらすおおみかみ）に国譲りをしたと記され、さらに現世の政事（まつりごと）は天照大神が、人の縁など目に見えないことは大国主大

神が治めるようになったとも記されています。

神在祭が行われている間、出雲地方の人々は、物音を立てずにひっそりと暮らすのが習わしとされています。そのため、神在祭は「お忌祭（おいみさい）」とも呼ばれています。

神様が各地へ戻られる十一月は、神送りの神事が行われます。この頃の島根半島は、季節風が強く吹いて海が荒れるので「お忌みさん荒れ（おいみさんあれ）」とも言います。そして、神々が去った出雲地方に冬の足音が近づき、人々は冬仕度を始めるということです。

今の私たちは、神様の存在を近くに感じて生活するようなことはほとんどありません。しかし、古（いにしえ）の時に思いを馳せると、大いなるものに畏敬の念を抱き、謙虚さや遠慮を習わしとした先人の培いが、今日の私たちに様々な知恵と恩恵をもたらしているということにあらためて気づきます。

日本の神話は、人々の願いを基にした力強さや、柔らかさを合わせ持つ魅力にあふれています。

教頭 金安伸一

ご先祖さまって不思議



樹徳中学校・高等学校長
野口秀樹

スポーツの秋、読書の秋、色々ありますが、実りの秋であります。

この時期には中学高校とも体育祭、合唱コンクールなどの学校行事も行われます。生徒達が輝きを増す季節と言えるでしょう。

この原稿を書いている今、秋の彼岸中であります。私の寺では、家族連れのお檀家さんが先祖のお墓参り、本当に賑やかなのであります。国民祝日秋分の意義は「祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ日」とされていますが、その影響でしょうか、それとも日本国民の感性でありましょうか。

私は毛筆を使う機会が沢山あります。上手く書けた自分の文字を見ながら懐かしさを感じるのであります。何故だろう、何故だろうと考えていると、気づいたことがありました。それは字が下手だと嘆いていた自分の文字が、40年前にお別れした父親の字と瓜二つで上達していること。やっぱり親子とは恐ろしいものであります。でもとても嬉しいのであります。

先祖とは自分のルーツではありますが、不思議な感情を抱く存在であります。

先日、東京在住の87歳のご婦人からお電話をいただきました。電話口から聞こえてくる日本語がたどたどしいので確認すると、台湾国籍をお持ちの方であります。

その方のお父さんは明治30年、桐生相生村で誕生されました。子供の頃に聞かされたかすかな記憶をたぐり寄せての電話でありました。

彼女のお父さんは2歳の時に養育費をもらって母親と家を追われるのです。

その後母親は再婚、彼は横浜の本牧へ養子に出されます。

そこでの生活は厳しく小学校3年までしか行かせてもらえず、子守をしたり牛乳配達の毎日、肉親の愛情を知らずに育ちます。

それでも弱音を吐かず人を恨まず努力し、

神田の正則英語学校へ通い、英語を学ぶ機会を得ます。一生懸命学んだといいます。

そして日本郵船へ勤務し、何度も洋行するのです。最終的には化粧品品の瓶、薬品を扱う工場主となる。77歳で逝去。愚痴一つ言わない父、でも自分の父親に会ってみたいという思いがあったようで、晩年父親の墓参りがしたいと漏らしたそうです。いつも心の何処かにそのことがあったのだろうとご婦人は言うのです。

この度私の所に電話をしてきた目的は、父に変わって祖父のお墓参りをする事。87歳の自分としてはこれが最後のチャンス。必死な思いの電話でありました。

私はご婦人の思いに駆られ、村の資料や寺の過去帳（亡くなった方の命日や名前、家族など記されたている）で懸命に調べてみました。

幸いなことに私の寺にその方のお墓がございました。お役に立てたのであります。

その一族は東京に転出され、現在桐生市にはどなたもおられません。お父さんの生家は明治大正時代、生糸商で大成功されたお大尽、屋敷や工場が絵はがきにもなっており、お寺にもそれが残されておりました。

ご婦人が念願かなってお子さんに連れられて、お彼岸にお参りに見えました。

金モールが入った日本郵船の制服を着たお父様の写真を携えて、「父も私も知らない祖父にこんなに立派になりましたと報告に参りました。祖父も喜んでくれたでありましょうし、父だって私のとった行動を喜んでくれると思います。」

品の良い素敵なおばあちゃまでした。

自分のルーツを知りたがったり、先祖を恋しがったりする方が私のお寺にも沢山見えます。こんな感情を持つのは日本人だけなのでしょう。

学校で毎日接している生徒達、今を懸命に生きていますが、何十年か後、彼らが先祖に思いを寄せる時がくるのでしょうか。

そんなことを想像すると笑みがこぼれてしまいます。

合掌

夏期海外科学研修 参加体験記

○先月号では写真のみのダイジェスト版でお届けしましたが、今月号は海外科学研修に参加した生徒の体験記を紹介いたします。

◆海外科学研修を終えて 2年SS組 児玉 彩姫

この研修への参加は私にとって様々な学びをもたらしてくれたと、帰国した今、思います。

私がこの研修で学んだ事の一つ目は、集団行動の大切さです。海外に行かねば学べない事ではないかもしれませんが、集団行動であることを私の中では意識的に強めて行動するよう努めました。集団行動は、誰か一人でも遅刻したり、乱したりしたら全員に迷惑がかかります。この研修では、私はしっかりと時間を守り、行動できたと思います。寮での最終日も荷物は前日までにまとめ、集合時間の十分前には集合場所に行きました。集団行動とは、自分ひとりの身勝手は通用せず、周囲との協調が必要です。普段、私は朝自分で起きることさえ、周囲の支えの中で実現できていた部分もありました。しかし、海外ではそういうわけにもいきません。そこで、寝坊などしないよう、ルームメイトと協力してお互いに生活を共にする中、互いの距離感がぐっと縮まりました。私はこれまで、何事も受け身で物事を捉えたり、関係を構築する事が多かったと思います。しかしその事で、自分の知り得る世界や可能性を自ら縮めてしまっていた事にも気がつきました。

研修での二つ目の学びは、自分の殻を破ることでした。私は海外研修に参加するまで、人前で何かを披露したりするのがとても恥ずかしく、緊張してしまうので、あまり自分から挑戦したことはありませんでした。出発前、クラスの中で「アメリカで何かそれぞれ披露しよう」となった時、私は正直どうすればいいかわかりませんでした。皆から「得意なバトンやれば？」といわれた時、そうか！という思いと、でもそれを披露するのか、という思いで気持ちは不安だらけでした。実際、一人で披露することがとても嫌で、直前までそれでいいのか迷っていました。しかし、いざ本番でやってみると、日本人の皆だけでなく、ブラジルや台湾の皆もととても盛り上がってくれました。大きな拍手もいただき、とても嬉しい気持ちになり



ました。迷いながらも挑戦してみて本当に良かったと思いました。

この経験から、人前で何かをすることは勇気が必要だけれども、そこを乗り越える事でこんなにも満足感を得られるのだと知りました。また、人前で何かをすることは決して恥ずかしいことではないという事も経験でき、もっと自分から人前に出たり、積極性のある人間になっていきたいと思いました。

私はこの研修で、自分の課題を見つけることができました。それは「積極性がない」、ということです。これはUCLAで講義を受ける中でも感じました。

私たちのクラスにはブラジル人や、ロシア人がいました。中でも、ブラジル人たちは講義中、とても積極的に先生と会話をしていました。講義の中で、ブラジル人二人、ロシア人一人、そして日本人の私一人の計四人でディスカッションをする場面がありました。私は分からない単語があるとすぐに電子辞書を使って調べていましたが、ブラジルの生徒たちは私と同じように不明な点がある場合には、先生に遠慮なくどんどん質問していました。そうした姿を見ていて私も彼女たちのようになりたい、と思いました。この講義をとおして見つけた私自身の課題は、日本で早速改善に向けていきたいです。

この十日間の海外研修は私にとって新鮮で、楽しい事もたくさんありましたが、自分の課題を多く発見することもでき、学び多きものになったと思います。日本では多くの方々に支えられている事があたり前になってしまい、自分自身の責任で自らが行動する、といった意識に欠けていたように思います。

海外研修をとおして、私は自分に足りない、責任感、自主性、積極性など多くのことを実体験をとおして学びました。しかし、その一方で、この日本で生きている私自身が、多くの支えによって生かされていることにも気がつきました。私にとっての日常の当たり前に、「感謝」ができるようになったこと、そして自ら、より前に出て行こうとする、これまでにない新たな自分も加えられたことが、暑い日差しの照りつけるアメリカで過ごした、私なりの学びでした。

“ガリ勉” のすすめ

年寄りじみた言い回しから始めて申し訳ないが、近頃の若い人たちは、努力をしたがらないようだ。

反論されそうだが、要は、努力をした分を確実に結果に結びつけたがる、あるいは、努力をアピールすることなく、スマートにサラリとこなして結果を出してしまう、というのを好むように見えるのだ。昔流行ったアニメのように、血のにじむような努力をしてようやく大成する、といったような行為は、現代では受け入れられないのだろう。

先頃引退したイチローが、猛烈な努力家であったことはよく知られているが、その努力を人に見られることは好まなかったらしい。ごく一部のドキュメンタリー番組で見かけた程度だ。だから傍目には、あの大活躍ばかりが印象づけられ、その天才的なセンスがアピールされるのだろう。もちろんセンス無しにあれほどの偉業は達成できない。“天才が猛烈な努力をした結果”と言えよう。

二学期となり、もう中間試験も始まっている。それぞれ努力しているとは思いますが、“猛烈な”努力と言えるほどの様子を見せる生徒は、めったにいない。皆“効率よく”“スマートに”点を取ることを考えているように見える。“ガリ勉”とか“点取り虫”などという言葉は、死語どころか、今の子は聞いたことのないのではないのか。

説教じみた言い方で恐縮だが、ぜひ“猛烈な努力”を経験してみたい。 “効率”な

ど度外視し“スマートさ”など全く考えず、ただひたすらに努力する。今の若者にとっては“格好悪い”やり方なのだろうが、このような経験は、学生である今だからこそできることだ。また、努力は必ずしも結果に結びつかないかもしれない。しかし、無駄ではない。自分を追い込んだ経験は、必ず将来に生きる。「若いうちの苦労は買ってでもしろ」は、嘘ではない。

二学期は、どの学年にとっても大切である。ぜひ、後の自分の財産となる時間にして欲しい。
(編集子)

十一月の法語

気付けば

毎日が特別な日

十月の法語

チャンスをつかむ準備は

できていますか

◆後援会ならびに樹妙会より車両寄贈

8月27日に学校後援会（会長：杉戸健二氏）より、9月5日には樹妙会（同窓会／会長：小倉康宏氏）より、学校活動のために車両（ハイエース）が贈呈されました。

今後、校用車として活用させていただきます。



後援会からの贈呈車



樹妙会からの贈呈車

一貫校 中学校 だより

◆マイナスをプラスに転化する

我が子が失敗したり、挫折を味わったり、心が傷ついたりするのを見て、喜ぶ親はいないでしょう。大きな怪我もせず、病気にもならず、友だちとも仲良く、そして出来れば賢く美しく、物質的にも精神的にも豊かに健やかに成長して欲しいと、誰もが願います。危険やいじめ、不正義から守ってあげたいと思うのは、親の自然な人情です。そういう親心を親心として充分認めた上で、なおかつ、子ども時代の挫折体験や失敗体験の大切さを強調したいと思います。

人は、失敗しながら成長し、しくじりながら賢くなっていくものです。悲しみを味わってこそ、人に優しくなれるのです。差別や不正義、理不尽な行いに悔し涙を流した人間こそが、真に人権や正義の重要性を感得できるのです。飢えてこそパンの有り難さを、寒さに震えた体験があってこそ暖炉の嬉しさを、病気に苦しんでこそ健康の大切さを実感できるのではないのでしょうか。

マイナスがプラスに転化する 災い転じて福となる

これは、昔も今も変わらぬ逆説、人類普遍の原理 です。

今の子どもたちや若者を見ていて、気づくことの一つは、とても傷つきやすくなったということです。どうも失敗や挫折、批判や叱責、誤解や冤罪に対してとても弱いように思えるのです。自分を分かってもらいたい、理解してほしい、認めてほしいという気持ちは人一倍強いけれど、少しでも否定されたり、批判されたり、結果がでなかったりすると、すぐしょげてしまってやる気をなくしたり、逆に、過剰に反発したりすることもあるようです。ささいなことで「キレ」てしまう若者が多くなったのも、こういう傾向の延長線上にあるように思えます。これは、幼い頃から家族に大事にされ、快適な環境で、危険から守られ、自分の思いや要求が容易に受け容れられ、失敗や挫折や理不尽な目に遭わないようにガードされてきた結果のようにも思えます。

学校でも、平等や人権が強調され、挫折感や敗北感、差別感や屈辱感を味わうことは以前に比べ格段に少なくなりました。「叱るより褒めて育てる」「その子らしさを大切にする」「子どもの思いに寄り添う」ということで、どの子も大切にしようとして努めています。しかし、時には、片方に傾きすぎた振り子を、ちょっと修正することも大切なことともあります。

昔は、“若いときの苦勞は買ってでもしろ”とよく言ったものです。

今、我が子に進んで挫折体験や失敗体験を与えようという親は少ないでしょう。当然です。自ら求めなくても、人生途上では多かれ少なかれ必ずそういった事態に遭遇します。問題は、その時、親が我が子に対してどう対処するかです。マイナス体験をマイナスのまま受け取り、ただ守ろうとするのではなく、そのマイナス体験をプラスに転化するにはどういう援助を我が子にしたらよいか考えることが大切だと思います。ひ弱な後ろ向きの子に育つか、たくましく前向きの子に育つか、この時の親の態度にかかっているのです。

(副校長 澁谷和郎)

◆学年を越えて自然に触れた

高原学校 ～富士登山を通して

8月8日から2泊3日で中学1年生、2年生の生徒が、富士山方面に高原学校に行ってきました。初日は青木ヶ原樹海散策で、生徒たちはガイドさんの解説を聞いて、地面が溶岩の冷えた石であることに驚いていました。2日目の富士登山ではスリルを味わいながら、時には仲間に助けられ、登っていました。それから霧や雲が多く、「雲が目の前で動いている！」と驚いていました。また2泊3日の宿泊では集団行動において、それぞれ協力することができました。高原学校を通して、生徒たちは自然の偉大さや、仲間の大切さなどに改めて気づけたようでした。



◆輝け！校内

英語スピーチコンテスト

7月18日校内スピーチコンテストが行われました。各クラスの予選を勝ち上がった代表者が全校生徒の前でスピーチしました。1年生は

「Wonderful Gunma」、2年生は「Beautiful Japan」と題したエッセイをスピーチし、3年生は自作の英作文をスピーチしました。予選、校内大会と、どの生徒も英語の発音に悩みながらも大いに練習に励んでいました。

校内審査の結果、今井尚子さんが最優秀賞、海外在住経験者部門では戸田和志君が最優秀賞に選ばれました。二人は学校代表として桐生市の大会にも出場しました。

◆全力！校内球技大会

7月12日、校内球技大会が行われました。生徒たちはドッジボール、バスケットボールを全力でプレーして、お互いの健闘を讃え合っていました。

クラスの団結力も高まったでしょう。

幼稚園だより

◆「幼児教育・保育の無償化と園の責任」

10月より「幼児教育・保育の無償化」がスタートします。この制度には子育て世代の経済負担を軽減し、少子化の進行を抑制するとともに、多様化していく社会の中で、子どもたち一人ひとりが自分らしく活躍できる大人に育ってほしいという願いが込められています。全ての子どもたちが幸せな人生へ向かってスタートが切れるよう、良質な幼児教育を提供する大きな責任が園に求められることになり、責任の重さを実感しています。

無償化（10月1日～）の対象

- ・ 樹徳幼稚園に通う満3歳になった後の4月1日から、小学校入学前までの3年間が無償となります。ただし、幼稚園で1号認定を受けている場合、または入園時期に合わせて満3歳（誕生日翌月）から無償化となります。
- ・ 通園送迎費、給食費、行事費などはこれまで通り保護者の負担となります。
- ・ 0～2歳で住民非課税世帯を対象として無償化となります。
- ・ 無償化により、1号認定から2号認定への変更が進んでいます。

幼児教育の無償化は、未来を担う子どもたちへの投資ですが、今から半世紀前の義務教育において、教科書が無償化されたとき、母親が教科書を大切に使うよう指導した記事が大きな話題となりました。「大人になったら日本の国が良い国になるよう、お仕事したりお役に立つよう、今しっかり勉強してください」、と。国からももらったものであることを伝えると、子どもはちょっと緊張しうれしそうな表情でうなずきました。なんと素晴らしい親子の情景、凛として若い母親と素直な子どもの姿が見えます。幼児教育の無償化においても、保護者との連携を深めて、子どもに対する思いを保護者と共有し、子どもたちの確かな成長のために、しっかり取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



もも組・すみれ組「英会話授業」



ようこそ！樹徳幼稚園へ

◆「もうすぐ運動会」

秋風が心地よく、体を動かすにはぴったりの季節を迎えました。来る10月12日（土）は幼稚園の一大イベント「運動会」です。9月中旬より練習等準備を進めてきましたが、いよいよ本番が近づいてまいりました。残暑の厳しい中、子どもたちは毎日元気いっぱい練習に取り組む、その顔は充実感に満ちてキラキラ輝いています。当日は一生懸命に取り組む姿や、仲間と力を合わせて頑張る姿を見せてくれると思います。そして、大人も子どもも元気に笑顔いっぱい、ともに楽しめる一日にしたいと思います。ご家族の皆様や関係皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

◆「ちびっ子国際交流」

オーストラリア・レッドランズ高校から、樹徳高校の交換留学生として来日した7名（男性4名、女性3名）が、9月17日（水）に幼稚園を訪問しました。「英会話」や「お茶のお稽古」（年長）に参加し、園児との英語交流や日本文化に触れるなど、楽しい時間を過ごしました。ホームステイをしながら通学し、緊張の毎日を過ごす中で、元気で可愛い園児との交流により、少しリフレッシュできたのではと思います。子どもたちにとっても、オーストラリアの素敵なお兄さん・お姉さんとの交流を通して、心に残る思い出ができ、素晴らしい「ちびっ子国際交流」となりました。



日本文化体験！「お茶のお稽古」（年長）

園児募集

『2歳から樹徳の幼児教育（保育）を！』

◎募集人員 2歳児 10名 年中 10名
満3歳児 10名 年長 若干名
3歳児 20名 ※2歳前のお子さんにも相談に応じます。

○入園受付：1年を通して随時受付・随時入園できます。

○10月8日（火）10時00分より、桐生市による入園面接を行います。桐生市より担当者が来園し、認定申請等の受付及び無償化や新制度についての説明があります。桐生市在住の方のご来園をお待ちしております。

住所：桐生市広沢町三丁目4475

TEL：0277-53-5571

ホームページ <http://www.jutoku.ed.jp/>

10月(正念)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	火	更衣 中間試験(～3日)	更衣 中間試験(～3日)	更衣
2	水	マイトリー基金抛金日 県校長会	マイトリー基金抛金日	英語(全)文字・数(年長)
3	木	市街地清掃 プレテスト打合せ 後援会役員会②会計監査 関東地区私学教育研究会(～4日)	後期時間割開始	体育(全)文字・数(年中)
4	金	授業料・第2回諸費納入日 3年自動車運転免許取得教習解禁	英検②(4～5級)	
5	土	英検②一次 3年ベネッセ・駿台記述模試②	英検②(2～3級)午後	2・3号こども開園日
6	日			
7	月	朝礼 学年主任会		リズム(全)線(年少)
8	火	体育祭予行練習		桐生市入園面接(本園) 読み聞かせ(西山)
9	水	体育祭		英語(全)文字・数(年長)
10	木	体育祭予備日	中学校体育祭予行・市街地清掃	運動会予行練習 保育料納入日
11	金	大掃除 中学生入試体験プレテスト会場作成 中高協会理事会(新島)	中学校体育祭	運動会前日準備
12	土	中学生入試体験プレテストA日程 職員出勤日		運動会(雨天順延)
13	日	中学生入試体験プレテストB日程		運動会予備日
14	月	体育の日		
15	火	10/13振替休日		運動会代休 2・3号開園日 預かり保育
16	水	中学校保護者学校見学会(～18日)	中学校体育祭予備日	新採研(後期Ⅰ) 英語(全)文字・数(年長)
17	木	日私中高連協会長・事務局長会議 全国私学教育研究会(～18日 栃木)	ミニマナーアップ運動	体育(全)文字・数(年中)
18	金		漢検②	
19	土	数検① 3年河合塾全統記述模試③ 後援会研修旅行 1・2年ベネッセ実力診断(課外受講者)	樹徳中学校模試② 中3海外語学研修最終保護者説明会 午後	2・3号こども開園日
20	日			
21	月	LHR 教科主任会	合唱コンクール	県幼教育課程研究協議会 リズム(全)線(年少)
22	火	即位礼正殿の儀		
23	水	3年河合塾全統マーク模試③(～24・26日) 関東高P連役員会(～24日)		お茶のお稽古④ 英語(全)文字・数(年長)
24	木			体育(全)文字・数(年中)
25	金	合唱コンクール(1年・2年総合音楽履修クラス)	合唱コンクール(4年)	親子遠足(ツインリンクもてぎ)
26	土	漢検② 1・2年ベネッセ総合学力テスト		2・3号こども開園日
27	日			
28	月	群馬県民の日		
29	火		第一期入試願書受付(～11/1)	ボール投げ教室 読み聞かせ(西山先生)
30	水	制服アフターサービス	三越アフターサービス	卒園・修了写真撮影 英語(全)文字・数(年長)
31	木	出欠統計提出 食育の日		体育(全)文字・数(年中)

※ 1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です

■ 樹徳コミュニティセンター「み法」

10・11月の行事予定

- (1) ラタンアート工房「桐生藤工芸」 主催 野村ナナ子さん
10/3 (木)、10/17 (木)、11/7 (木)、11/21 (木)
- (2) 七草ゼミナール塾 主催 上野文雄さん
10/25 (金)、11/19 (火)
- (3) 神山晃一作品展(絵画) 10/23 (水)～10/27 (日)



桐生錦町一丁目

盛運橋薬局前

11月(正定)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貫 校	幼 稚 園
1	金		頭髮服装指導	避難訓練(火災)
2	土	SS組入試説明会 県高校総合文化祭開会式(群馬音楽センター)		2・3号こども開園日
3	日	文化の日 英検②二次	文化の日 英検②二次	文化の日 きものの日児童画展表彰式
4	月	振替休日	振替休日	振替休日
5	火	授業料納入日 マイトリー基金拠金日 ベネッセ・駿台マーク模試(～6日・9日)	マイトリー基金拠金日	さつまいも掘り(園の畑)
6	水			英語(全)文字・数(年長)
7	木			体育(全)文字・数(年中)
8	金	中高協会定例会(県央) 私学教員適性検査委員会(県央)		お誕生会11・12月生まれ 保育料納入日
9	土		樹徳中学校第一期入学試験 数検② 午後	2・3号こども開園日
10	日	ペン字検定②		
11	月	LHR 修学旅行事前指導①(1～2時限) 学年主任会	お役に立とう週間④	リズム(全)線(年少)
12	火			焼き芋会 読み聞かせ(西山先生)
13	水	日私中高連常任理事会/理事・監事・評議員・事務局長会議(東京) 私学振興全国大会(東京)		英語(全)文字・数(年長)
14	木	交通安全マナーアップ運動③	交通安全マナーアップ運動③ 3年海外語学研修(～20日)	JA親と子の交通安全ミュージカル(年中・年長) 研究委員研修会 体育(全)文字・数(年中)
15	金	県高P連指導者研究集会(前橋テルサ)		年中保護者園内清掃 七五三お祝
16	土			2・3号こども開園日
17	日			
18	月	期末試験(～21日) 教科主任会 ITS研修③	4～6年期末試験(～21日)	リズム(全)線(年少)
19	火			設置者・園長研修会
20	水			お茶のお稽古(年長)⑤ 英語(全)文字・数(年長)
21	木	制服アフターサービス 修学旅行事前指導②(5～6時限) 3年河合塾全統センタープレテスト(～23日)		体育(全)文字・数(年中)
22	金	食育の日		
23	土	勤労感謝の日		
24	日			
25	月	朝礼 運営委員会 3年SSKS組三者面談(～29日)		リズム(全)線(年少)
26	火	2年修学旅行直前指導		ボール投げ教室 読み聞かせ(西山先生)
27	水	2年修学旅行(～30日)	5年修学旅行(～30日)	英語(全)文字・数(年長)
28	木		三越アフターサービス	体育(全)文字・数(年中)
29	金	出席統計		
30	土			2・3号こども開園日

※ 1日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

[Web] www.jutoku.ed.jp [Mail] office@po.jutoku.ed.jp

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく